

『人や自然とのふれあい 桂台』 桂台小学校より

今年も5年生が荒井沢市民の森の田んぼで米作りを体験させていただきました。田植えから稲刈りまで愛護会の皆様のお力を借りながら、稲の様子をわくわくしながら観察してきました。また、荒井沢市民の森愛護会の皆様との交流を通して、自然を守ること、ふるさとの緑を大切にすることについて、たくさんのお話を学ばせていただきました。

6月5日(水) 田植え

荒井沢愛護会の人に教えてもらって田植えをしました。みなさんにささえてもらい、いいけいけんをしました。地下たびをはいて田植えをしました。これをはいて歩くとカッパになった気分でした。私は身長が低いほうなので少し小さめの田でやりました。荒井沢の田んぼはしめった田んぼだと聞きました。中は深く、ふくらはぎまでつかってしまい、となりの人とぶつかってどろがついてしまいました。足は重くて大変だなと思ったけど、愛護会の方は毎年やっているからがんばろうと思いました。やっているうちに楽しくなってきました。愛護会の方が言っていたのと同じなのかなと思いました。まっているあいだ「生き物を見つけよう」といわれたのでさがしました。ヤゴ、オタマジャクシ、貝が見つかりました。田植えがおわってのんだお茶もおいしかったです。すこし暑い日にやったけどそんな関係ないくらい楽しかったです。もしかしたら一生で一度になってしまうかもしれないけど機会があればまたやりたいです。いねかりのじきが楽しみです。

10月10日 稲刈り

地下たびをはいて田んぼに入ってみると、田植えのときみたいにとろに足がはまってしまいました。稲を刈るのは思ったよりもかたくてやりにくかったです。昔の農家の人は手作業だったから、一つ一つていねいに刈っていたんだと、何日も何日も続けると全部刈り取れないんだと思いました。お米は字のように八十八回作業をしてやっとおいしいお米が食べられるときいて、私達はそのうちの二回しかやってないのにこんなにつかれてしまいました。これを八十八回も続けていたらほかのことをするひまが全然ないんじゃないかと思いました。

荒井沢愛護会の方が「米は八十八の苦労をしてやっと米になるんだよ」と言っていたけど私達は、田植えと稲刈りだけしたので86回は愛護会の方達に任せてしまいました。荒井沢のイネは学校で育てたイネとちがって緑で本数も多くて米もよくなっていて全体的にがっしりしていました。こんなに立派なイネができたのは、荒井沢の人のおかげなんだなと思いました。今度挑戦する時は、愛護会の方から教えてもらった八十八を全部やってみようと思います。



11月15日 総合の学習

総合の時間に「失敗しない米作り」について調べ、来年の5年生に伝えることにしました。ほくは、ハケツ稲がうまく育たなかったのは、土のせいではないかと考えました。そこで愛護会の方に手紙を出し、米作りに適する土があるかどうか、たずねました。そのほかにも、友だちと南農協に行って資料をもらってきました。それでわかった事は落ち葉やわらでたい肥を作り土にもどすことをしりました。発表会のときは愛護会の方に来ていただき、みんなの疑問や質問に答えていただきました。ほくは田んぼだけでなく生き物も大切にしているという話を聞いてすごく納得しました。三学期は自分たちで作った米で調理し、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

6月9日(日)

たおれてしまっているイネやかれているイネはあるけれどほとんど元気に育っていました。土がけっこうやわらかくなって水の量は第一関節くらいまでありました。イネの長さは15cmくらいでした。

6月29日(土)

イネの長さが34cmにのびていました。たおれていたイネもひかてきまっすぐにのびていました。雑草がのびていたので雑草をとりにいきたいです。

7月14日(日)

イネの長さは45cmくらいでした。15cmくらいで成長が止まっているイネが数本ありました。荒井沢の方々がたくさんはえている雑草をとってくださいました。

7月27日(土)

イネの長さが53cmくらいでした。病気のイネがあり、荒井沢の方達はイネの病気をたたくっているそうです。

8月8日(木)

イネは75cmくらいにのびていました。水がぬいてありました。何度とっても次々と雑草が生えてきてしまい、大変だと思いました。

# いたちがわらばん

通刊20号

鮎川・独川・川原番・瓦版 03冬号



版画 宗森英夫

『鮎の石像』

## 独川の「独」と「い」

「独」と「い」は、辞書にないような組み合わせです。確かに普通の辞書には載っていません。ところが、ある日、栄図書館で諸橋徹次(てつじ)さんの大漢和辞典(全十一巻)の中にひそんでる「独」を発見して大喜びしたが、意味不明の文字であり、ガッカリしました。

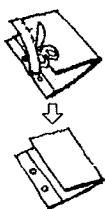
しかし、栄区民マップ、戸塚区史、横浜下水道史などの自治体関係の資料には「独川」とあります。時代をさかのぼれば、昭和三年(一九二八)の本郷反別入図(たんべつりず)、明治十六年(一八八三)の神奈川県管下之図、明治十二年(一八七九)の皇国地誌に「独川」と書いてあります。江戸時代の二、三の辞書もぞいてみたが、「独」の字は見えませんでした。一一八〇から二二六六年までの鎌倉幕府の記録である吾妻鏡(あづまがみ)には「独河」と三度記されています。

また平安中期から後期にかけて成立した色葉字類抄(いろはじるいしやう)や名義抄(みやうぎしやう)に「独」がしっかりと鎮座しているのは驚きでした。しかも、前出の大漢和辞典は、「独」を意味不明の字としているが、不思議なことに平安時代の辞書は、キチンと「イタチ」と説明しています。

平安時代からほそぼそと生き続け、今では独川流域の人々から地域の固有名詞としてかわいがわれている「独」は、なぜか辞書の中にいず、JIS漢字表の中にもいない。そのため、われわれは子供たちへの説明、情報の文書化や通信に大変不便を感じています。皆さんどうしたらわれわれの「独」を表に出せるのでしょうか。(みつちゃん)

切りとり線

この部分を  
取り出すと  
便利です。



発行年月  
2003年1月

(通刊20号)

発行：独川OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19  
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260  
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1  
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421  
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

## いたち川の記録

いたち川は、区内を水源として区内で終わる河川としては数少ない河川で、全延長9km足らずの小さな河川です。

過去の被害記録を調べてみると、大正9年柏尾川の氾濫は、旧戸塚区(その頃は鎌倉郡であったが)全域を泥海化した記録があり、その後昭和6年に100戸の床下浸水があり、昭和33年の20号台風からは、約10年ごとに台風による被害の記録が残っています。

しかし、それ以降の被害は、集中豪雨によるもので、台風被害を遥かにしのいでいます。

被害を起こした集中豪雨を調べると、前号でも紹介した昭和36年には、時間58mmの雨が市内南部方面を中心に被害をもたらし、その後、45、48、49、50年、平成2、5、6、10、11、12、13年と、毎年のように局地的豪雨に襲われています。

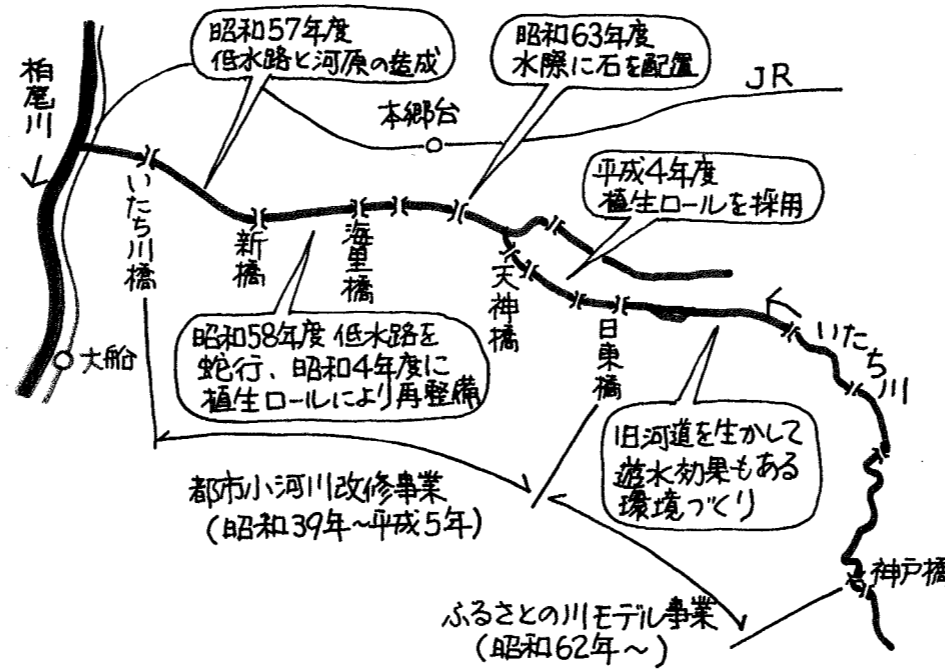
平成5年、平成8年に栄区で浸水の被害が出ている集中豪雨の特徴は、時間あたりの降雨量が多いことです。近年の記録では平成10年に、92mm/hを記録、総雨量も99mmで短時間に大量の雨が降って予測が出来ない降雨であることがわかります。その時は、市内中心部の帷子川の堤防が決壊し横浜駅一帯が水没しました。

また、去年8月30日に、上郷地区に83mm/hの雨が30分程度降り続き、右支川が溢水し一部の家屋と道路が冠水しています。

被害が顕著に都市部に及びだした昭和30年代は、企業が都市部に集中し、特に河川に沿って工場建設が多く行われた時期です。柏尾川沿いの藤沢から戸塚までの間にあった水田が全て工場群となりました。40年代に入ると、栄区の間は切り崩され、堀は暗渠化され、水田が埋められ宅地造成が進みました。その結果、遊水効果のあった水田や溜め池(当時栄区には十数個あったと言われている)が無くなることにより、雨水は河川に短時間で到達するようになったため、洪水を誘発したと考えられています。



天神橋付近の洪水(昭和49年)



いたち川の河川改修は、昭和39年に準用河川\*になり、市長権限により改修が可能となったことから、45年には都市小河川\*の補助制度により工事が進められてきました。

いたち川橋より日東橋間については、昭和39年より平成5年までの歳月をかけて完成しています。

昭和年間までの改修の考え方は、河川に集まる雨水を改修により早く下流に流し、自分の管理区分を護ることを基本として設計されていました。しかし、いたち川の水を、柏尾川に流出させても標高差(相模湾との水位差は約7m)が少なく、潮の影響も受けることもあり、柏尾川の氾濫を多くするひとつの要因でもありました。そのため、昭和62年「ふるさとの川モデル事業\*」の指定を受けて、遊水効果を取り入れた河川改修が行われています。

近年、特に都市部の集中豪雨が多いのは、地球の温暖化とヒートアイランド現象によるものと考えられています。地球の温暖化は地球全体の公害問題との関連で、マクロ的対策が必要ですが、ヒートアイランド現象は河川を護り、川辺に多くの植物を繁茂させることにより、無くなると考えられています。

綺麗な河川をより多くの人たちで護り、活動の輪を広げることによって住環境の向上をはかり、21世紀の子ども達に良い環境を残したいものです。 水人子(ミジンコ)

\*準用河川 昭和50年に普通河川にも補助制度を拡大させ河川改修を促進させる制度です。

\*都市小河川 都市部にある中小河川の改修を促進させるため昭和45年に指定して国、県、市が相互に財政を負担する制度のことで、現在は都市基盤河川改修事業と呼ばれています。

\*ふるさとの川モデル事業 昭和62年に創設され、自然を保全し滞水能力のある河川づくりの制度です。

切りとり線

## リレートークその十九

### 「いたちかわらばん」五周年に寄せて

「いたちかわらばん」発刊五周年おめでとうございませう。

緑の多い所に住もう、と引越してきたのが栄区。仕事で荒井沢に通うこととなり、次にはいたち川を散歩するようになり……。誘われて顔を出したのが、「いたち川のマップづくり」の集まりでした。マップが発行された後、いたち川流域の交流を図ろう、と「いたち川が①コミュニティを計画。たった一日限りのイベントでしたが、川を軸に集まったいろいろなグループとの交流、子どもたちがクイズラリーに参加してはしゃぐ声、サカナもいたし、若男女集まって、「地域」の営みを実感できた、よい機会でした。

その後、魚の変死事件が相次ぎ、「もったいたち川のことを伝えよう」と企画されたのが「いたちかわらばん」です。私はその頃からほとんど参加できなくなってしまうましたが、隊員の方々が様々なことを取材し、表現される「かわらばん」を今でも楽しみにしています(ごめんなさい)。

「いたち川を歩いている」と、「JRはー」。「あー、ひさしぶり」と、あいさつを交わすことが多いです。ふと川面を眺めたくなる風景が、生活に密着している小径にある、っていいですね。「タマちゃん」が来なくなったり、川を見ている人が他の川に比べて多いのではないのでしょうか。人口密度もほとんどで、なんとなくゆったりとした街、栄区。きこらない暮らしがあり、ここに住んでいる、という安心感が私は好きです。(野良ちゃん)

## 河川用語のまめ知識 その四 川の「左岸」と「右岸」

川の流れの方向(下流)に向かって、右側を「右岸」、左側を「左岸」と呼んでいます。したがって、本郷中学校や栄区役所は、いたち川の左岸にあり、県立柏陽高校や本郷小学校は右岸にあることとなります。

瀬上沢から流れ出て、区役所裏で合流するいたち川の支流を、「右支川」と呼ぶのも、同様に本流から見て右岸側にある支流だからです。(いもり)

